

## 1 3年進路関係 年間予定 K は河合塾模試 日時は変更されることがあります。

月	日(旬)	大学・短期大学	専門・各種学校	就職・公務員
4	上旬 下旬	分野別進路ガイダンス K 全統模試(全員受験)		
5	中旬 下旬	中間試験 二者面談(サポートドッグ)		
6	中旬	(必要に応じて担任と個別面談) 小論文模試① 看護医療模試①(校外)		公務員講座(校内 月1通年) 公務員試験受付開始
7	上旬  下旬	推薦 AO 説明会①(7/26) K 共通テスト模試(校内 7/30) 三者面談・上級学校見学 共通テスト説明会①(7/25)		求人票公開  企業見学開始 就職希望票提出 応募見学決定
8	上旬	三者面談・上級学校見学		個別模擬面接指導 履歴書、志望理由書書き方指導
	下旬	K 記述模試(8/25) 推薦 AO 説明会② 「推薦希望票」提出		公務員試験開始  模擬面接指導
9	上旬	総合型選抜出願開始 小論文模試② 共通テスト説明会②		
	中旬	看護医療模試②校外 推薦選考会議 → 2日後に結果通知		就職試験開始(9/16) 結果連絡(概ね 10 日以内)
	下旬	共通テスト検定料振込 共通テスト出願 (今年から WEB 個人出願)		
10	上旬		専門学校出願開始 推薦入試開始	就職試験1人2社応募開始
		K 記述模試③(10/6) K 共通テスト模試③(10/20)		
11	上旬	学校推薦型選抜(推薦入試)※指定校含む 出願開始 K プレ共通テスト模試(11/17)		公務員結果発表
12	中旬 下旬	一般選拔出願確認 一般志願票作成	一般選抜は 願書受付開始・検定料振込	
1	上旬  18,19 下旬	短大一般選抜開始 共通テスト説明会③ 大学入学共通テスト本番 自己採点 大学一般入試開始		<b>AO 入試→「総合型選抜」</b> 専門学校の場合「AO 入試が正式入試名称の場合もあります。大学は「総合型選抜」 <b>推薦入試→「学校推薦型選抜」(指定校・公募)です。</b> 総合型選抜(旧 AO)も自己推薦という推薦入試の 1 形態ですが、いわゆる「推薦入試」というときはふつう「学校推薦型選抜」(指定校・公募)を指します。 9 月以降小論文・志望理由書・出願書類、および面接指導を行います。
2	上旬 下旬	一般入試(私立大学) 国公立大学前期日程		
3	中旬	国公立大学後期日程		

## <注意する点>

### (公務員)

- ①受験する自治体を早めに決定し、各自要項を取り寄せ出願する。早くスタートする自治体もあるのでホームページで確認する必要あり。「職員採用」で検索。
- ②倍率は高い。狭き門ではあるが早い段階から筆記試験準備にしっかり取り組むことで可能性は高まる。
- ③公務員模試を受け、公務員対策講座(校内、校外)に参加したりして対策を行い、まずは1次試験(筆記)の突破を。

### (専門学校)

- ①担任や進路担当に相談して、オープンキャンパスに参加して必ず数校を比較する。
- ②その分野に本当に興味があるか、その分野に就職したいか。2年、3年の短期間で資格等を目指すため、時間割はタイトである。実習等も多い。興味がない場合、かなり厳しいことになるので事前によくリサーチを。同じ分野の学校でも、学校によって校風がかなり異なります。
- ③目指す職業が明確であれば、大学より専門学校のほうが近道な場合もあり。
- ④早期 AO でのエントリーを進めてくる学校があるが、一部分野を除き、2学期でも十分間に合うことが多い。欠席が多い、成績が低い、などの理由で不安になっている生徒をノベルティや割引などで早く決めましょう！と誘ってくるが要注意。理美容、調理、医療系、など特に教材費、実習費が含まれている、いないなどよく見てトータルの学費を計算して比較しましょう。
- ⑤大学受験がうまくいかず、急遽「専門学校」に変更する場合注意が必要。必ず担任、進路担当に相談を。
- ⑥専門学校総合型選抜(AO 選抜)の出願までの手順

(1)担任に相談 → 学校説明会・オープンキャンパスに参加

↓ ※「エントリー出願届」を担任に提出。保護者印必要。(要項コピー添付)

(2)エントリー(エントリー面接)

↓

(3)「出願許可」(来ない場合は出願できない)「不合格」ということ。

↓

(4)「AO 出願届」担任に提出

↓

(5)進路担当、管理職で出願資格等に齟齬がないか確認

↓(特に問題がなければ)

(6)出願

※調査書を急がせる学校もありますが、原則学校からの発行ができるのは 9 月 2 週目あたりとなります。その旨を伝えれば特に不利益はありません。

### (看護医療系)

- ①看護師希望者は必ず「看護体験」に参加しておく。ミスマッチが起こると大変厳しい。一般受験でも面接がある学校多い。本当にその分野を自分が希望しているか、入学後も興味をもって取り組めるかしっかり確認を。
- ②看護:看護専門学校と4年制大学看護学部とではそのスタンスが異なる。学費も大きく異なる。どちらのタイプか、よく見極め、家庭で話し合いを。(例:厚木看護専門学校:3年間で164万、北里大学 看護学部 4年間で715万、4大看護学部平均661万)
- ③理学療法:飽和気味。作業療法のほうが求人は多い。就職先は高齢者施設などが多い。
- ④薬学部:伝統校をお勧め。入りやすい大学の場合、入学時の定員数と卒業時の国家試験受験者数にかなり開きがある場合あり。6年間で1200万程度かかるが、留年もそういう大学は多いためそれだけで済まない場合あり。
- ⑤評定が高く、筆記対策もできる場合は神奈川県立保健福祉大学が公募のチャンス高い。基礎学力を高めると同時に総合型対策にも早めに取り組むことが必要。近年では平塚看護大学校、国際医療福祉大に合格者が出ている。伝統校を選択することが望ましいが、倍率は高い。

**(1)志望校選び**

- ①学部・学科の選定・・・何を学びたいか、将来どのような職業に就きたいか。興味関心・適性。
- ②志望校の選定・・・校風、入試科目、通学距離、学費、自分の学力と入試難易度。
- ③志望校を6～8リストアップ。
  - \*第1志望校の受験科目に合わせて、併願校を探す。
  - \*難易度を分けて併願校を選定。(模試を受けないと自分の実力はわからない) → 模試が受験のパートナー。
  - \*目標を高く設定する。(ここが重要。ここ数年は志願者減+合格者増の傾向)
  - \*模試を計画的に多く受ける。「今どの科目、どの分野ができていないか。」確認する。 復習が重要!
    - ★直前まで合格可能性が低くても合格の例はかなりある。(「入試当日のその日まで学力は上がり続ける」)
    - ★共通テスト利用入試のほうが同じ大学でも合格難易度は上がる。
    - ★模試は毎月受験できるように計画を。(進路通信第1号参照)

**夏休み前の課題**

- ①年間・1日の学習計画立案
- ②授業中心に基礎事項復習
- ③志望校の大まかな選定
- ④受験方法は?

→

**夏休み中**

- ①学校説明会参加
- ②志望校絞り込み
- ③受験科目基礎固め、完成

→

**夏休み明け以降**

- ①応用問題、過去問(11月～)
- ②受験校最終決定
- ③共通テスト対策

**(2)塾、予備校について**

- ①受験の基礎は学校の授業。授業を活用できない生徒は塾、予備校も活用できない。(時間ばかり浪費する)
- ②戦略をもって、目的意識をはっきりさせたいうえで予備校を使うのは良い。(短時間で奇跡のような成績アップができる、という幻想は抱かないこと。)
- ③予備校に通う場合、その授業の予習復習も必要。予備校のテストに追われて、本当に自分に必要な弱点教化、基礎問題完成といった時間がとれず効果が出ない場合がある。
- ④割安な「スタディサプリ」等を活用する方法もあり。最後まで、学校に登校してリズムを壊さないことが重要です。朝の時間を活用しましょう。また、わからないところは学校の先生を利用しましょう!

**(3)保護者のサポート**

- ①志望校について、三者面談(夏休み)までに家庭で1度じっくり話し合いを。
- ②その際、こども任せにしない。学校任せにしない。親の希望や考えを押し付けない。
- ③受験生だからと特別扱いせず、たんとんと日常を。干渉しすぎず、かといって日ごろの様子には目配りを。
- ④他人と比較しない。食事や健康管理に配慮し、勉強しやすい環境づくりを。
- ⑤一般受験は2月までの長期戦。親子ともに強いメンタルが要求される。

**(4)夏季休業中の進路指導について**

- ①全員三者面談を行います。次の点についてあらかじめご家庭で相談をお願いします。(就職の場合は6月)
  - (ア)現時点での志望校:第1志望、併願校、一般の場合は5～6校。
  - (イ)入試方法(公募、指定校、総合型)について → 8月30日(金)希望票提出。
  - (ウ)共通テストを受験するか。→9月末に手続き開始。大学進学希望者は原則受験する。
- ②志望校の入学案内(願書)の取り寄せ:各自で必要なものを取り寄せる。(PC必須、印刷はコンビニでも可能)
- ③オープンキャンパスへの参加:人気の学校、学部は人数制限があったりするので注意。
  - (ア)第1志望には必ず行っておく。事前に質問事項を整理。
  - (イ)推薦受験希望者は必ず数回行く。面接で学校の印象などを質問されることが多い。
  - (ウ)専門学校は担任と相談して、2～3校見学して比較し決めること。
- ④夏期講習への参加:校内で実施される夏期講習に参加する。予備校や塾の夏期講習、スタディサプリで学習する。

\*学校優先です！

## (5) 学習の進め方

- ①規則正しい生活を送る。自分のリズムを壊さない。学校の授業をおろそかにし始めると危険。卒業まで学校生活をベースにして受験勉強に取り組みましょう。安易な欠席、遅刻が身についてしまうと進学後の生活にも影響します。
- ②学習計画を立てる。計画を立てて満足して終わりではダメ。進路の先生や塾、予備校のチューター等と相談し無理ない計画をたて、その実行状況をシェアしていく人がいるとよい。
- ③本番から逆算し、どの時期にどこまで進めるか大まかに決め、1 か月、2 週間単位でやることを決める。そしてこなしていく！仲間がいるとよいが、先生でもチューターでもアプリでも全国の見知らぬ仲間でもよい。
- ④合格するためには志望校の過去問研究は必須。出題傾向をつかみ対策を十分に行う必要あり。  
校内でも学習室にて赤本閲覧、および貸出をおこなっている。第1～第3志望校の赤本は購入すること。

- ⑤塾、予備校に行く効果：本人次第。学校の授業をおろそかにし、予備校に行けば学力があがる、と勘違いする生徒が多い。この予備校、塾のこの講座は自分の弱点強化に役立つ、この先生の講座は自分の得意科目の知識がさらに深まる、などきちんと分析したうえで必要な講座に申し込む。申し込んだ以上はきちんと予習復習をして臨む。「塾に行きたい」といった場合は、「何の講座を取るのか、その科目の学校での取り組みはどうなのか、まずは学校の授業に真剣に取り組む、成績を上げることが先である。」といった話をしてください。  
模擬試験、参考書、問題集、スタディサプリ等の優良アプリで十分受験対策はできます。

- ⑥机に向かえたら勉強の 7 割は完了！

## (6) 推薦・AO(総合型)か一般か

\*総合(AO):願書出願 9 月 1 日

\*公募:願書出願 10 月 1 日

- \*私大の93%が実施する総合型選抜(AO)、87%が実施する学校推薦型選抜(公募制)、そして一般選抜と、現在では私立大学受験の流れとして、3 段階の受験が主流となっています。公募や総合型のほうが受かりやすいし、試験勉強も楽では、というイメージがありますが、そうではありません。しかし、少子化が続く受験者数減少から、今後も推薦で早期に入学者を確保したい、という大学側の状況は続くと思われます。



- \*上位校への「総合型選抜」合格はかなり難しい。難関校を狙う場合は、一般で勉強に集中することが最も得策。(よっぽどの自己アピールするものがある、例)英検 1 級所持、数学オリンピック出場、全国大会優勝などは別)。公募推薦の場合は成績基準等条件を満たせば、「書類+小論文+面接」、や「書類+得意分野学力試験+面接」など。きちんと対策をし、小論文対策、志望理由書、面接練習などを行うことでチャレンジすることが可能。

- \*推薦型は「専願」(第 1 志望とし合格したら必ず入学すること)が基本。不合格の場合、次の候補を考えておくことは必須。その場合に、納付金手続きの締切期日の確認重要。

「一般の勉強が嫌だから」「早く決めたい」という安易な気持ちでは成功しない。評定が低い、欠席が多い場合も厳しい。(書類審査) 公募も総合型も学力を重視する傾向にあるので、一般にも耐えうる勉強も必須。自分の希望する分野が学べる学校学部で応募できる推薦入試形式がある場合に、早い段階で総合型、公募型を検討しつつ、一般にもスイッチできるような状態が望ましい。

- \*専願制の受験を複数申し込むのは不可。

- \*併願受験を希望する場合は専願の大学ではなく、併願を認めている大学に限ります。

指定校推薦は原則、他の入試との併願ができない制度



### 3 入試制度について

#### 【1】 推薦入試

**(1)学校推薦型選抜(指定校)**→まじめに高校生活を送り、授業、定期試験にもしっかり取り組んできた生徒向き

出願 10月1日

- ①受け入れ側の上級学校が、特定の高校に対して推薦入学希望者(人数枠あり)を募集。
- ②本年度の指定校は 7 月末の推薦説明会後に提示。
- ③希望する生徒は「推薦説明会」に必ず出席が必要。
- ④指定校推薦への応募は保護者押印済みの希望票を提出。(第 2 希望まで記入可。生徒→担任→進路担当者)
- ⑤校内推薦選考会議にて推薦される生徒決定。(9月上旬)
- ⑥推薦されることが決定した生徒には学校から願書が渡される。(自分で取り寄せない。一部例外有り)
- ⑦指定校を希望する場合には、先方指定の条件(成績・欠席日数・その他)を満たしている他、校内の推薦基準(右下参照)をクリアしている必要あり。
- ⑧希望票提出後は原則として希望校の変更はできない。推薦会議後の辞退はできない。
- ⑨受験後、入学辞退はできない。必ず入学すること。(経済的な状況により納付金が払えないかも、など不安がある場合は応募しないこと。)
  - いかなる理由でも「入学辞退」は学校として大きな不利益となり、次年度以降の推薦に関係してきます。
- ⑩入学後の取り組み(成績、出席状況)は翌年度以降の推薦枠に大きく影響します。学校の代表として入学するという自覚をもって取り組むこと。
- ⑪指定校推薦はほぼ不合格のない入試であるが、まれに不合格というケースもあり。(看護系) 面接で一言もしゃべれなかった、質問に答えられずコミュニケーションが成立しなかった、など)
- ⑫面接、小論文対策をしっかりと。
- ⑬合格後安心して過ごすのではなく、一般選抜で入学してくる学生とのギャップに困らないよう共通テストを受験する、英検準 1 級取得を目指す、など自己研鑽が望まれる。

**(2)学校推薦型選抜(公募)**→高校生活でアピールできることがある生徒向き

出願 10月1日

- ①上級学校が求める推薦条件(評定平均・欠席日数など)を満たしていれば、どこの高校からでも校長の推薦を受けて受験できる。
- ②受験を希望する場合は、校長が発行する調査書(成績、出欠の記録、行動記録等が記載されている書類)や推薦書(原則担任が作成する)が必要。自分で願書を取り寄せる。推薦希望票を担任に提出する。
- ③公募制推薦でも校内からの人数枠(上限人数)が決まっている学校がある。(国公立大学等)。その場合は指定校推薦に準じて希望を募り、校内で選考する。国公立大学では共通テスト受験を条件とする学校もある。

**(3)総合型選抜(AO, 自己推薦)**→評定基準を設けない学校多い。評定に自信がないが、面接やプレゼン、小論文など自己アピールポイントがある、という生徒向け。

出願 9月1日

- ①総合型選抜には、基本方針「アドミッション・ポリシー」(こんな学校だからこんな生徒が欲しい)に沿って募集から合否判定までを一貫して行う入試制度。学校により様々な方法で行われている。(面接複数回、講義受講、プレゼン、講義受講、発表、レポート発表など)
- ②総合型はほとんど「専願」です。「推薦」と同じ扱い。
- ③専門学校は 6 月～エントリー開始と動きが早い、焦ることなくじっくり選択を。エントリーは必ず担任と相談後。
- ④総合型を受験する場合は、事前に担任に相談し三者面談にて確認後、「総合型エントリー届」を提出。進路、管理職で応募条件等問題ないか、確認終了後出願する。

#### **総合型・公募推薦 まとめ**

- ①GMARCH レベルや有名上位校は難関。
- ②学校によっては一般受験のほうが合格しやすい場合もある。
- ③エントリーシート、志望理由書、課題、小論文、プレゼンなどが大きなウェイトを占め、対策が大変な労力。
- ④不合格の場合、一般受験へのモチベーションが落ちる。一般受験になる可能性を視野に入れ、準備をする。

### 過去の総合型、公募の合格状況

	令和 6 年度 1 期生		令和 5 年度 76 期		令和 4 年度 75 期		令和 3 年度 74 期	
	総合型	公募	総合型	公募	総合型	公募	総合型	公募
合格	31	8	25	7	34	9	28	11
不合格	10	10	9	3	8	3	24	5

### 令和 5 年度の合格・不合格状況

(総合型合格) 東洋英和女学院、二松学舎、鎌倉女子、東海、玉川、桜美林、鎌倉女子、日本体育、横浜美術、  
駒沢女子、明治学院、明星、玉川、杉野服飾、法政、ヤマザキ動物看護、東洋、東京農業、明星、神奈川工科  
(総合型不合格) 日本体育、帝京、北里、国士館、東京農業、明星、東海  
(公募合格) 神奈川県立保健福祉、北里、横浜美術、国際医療福祉、日本、東京農業、  
(公募不合格) 東洋、専修、多摩美術、横浜国立、昭和薬科、北里、星薬科、工学院

### 推薦入試受験上の注意

①推薦入試で複数受験をする場合。

- \*1 校目が「専願」で合格した場合は「入学」。2 校目は受験しない。不合格の場合、2 校目を受験することができる。
- \*「併願」可の学校の場合に、合格後すぐに「入学金＋前期授業料」を納入する必要あり。他大学に進学する場合は、一部返金は 3 月末の場合が多い。(試験、発表、手続きのスケジュール確認をチャート化するとよい。)

(併願の組み方例)	試験日	合格発表	手続き(納金)	受験 ○ ×
志望校	11 月 28 日	12 月 10 日	12 月 20 日まで	
A 併願校(専願)	11 月 25 日	12 月 1 日	12 月 10 日	×
B 併願校(専願)	12 月 15 日	12 月 20 日	12 月 27 日	◎
B 併願校(併願可)	11 月 22 日	12 月 1 日	12 月 8 日	△ 入学金は戻らない
C 併願校(併願可)	11 月 23 日	12 月 10 日	12 月 18 日	○ 納入不要

★「専願」と「併願可」の 2 校に合格した場合は必ず「専願」の学校に入学することになります。(誓約書提出)

- ②推薦入試の併願については、システムが複雑で思い違いで出願したり、条件に合致していなかったりという場合があるため、事前に必ず担任、進路担当を相談をすること。
- ③総合型選抜はほとんどが「専願」。要項に「専願」という文字がなくても、「本学を第 1 志望とし…」などの文言がある。合否が出るまで次の入試に出願できないので注意を。
- ④推薦入試においては、合格発表の後、1～2 週間以内に入学金等を納めない場合合格取り消しとなる。費用準備を！

## [2] 大学入学共通テスト 2026 年度入試は令和 8 年 1 月 17 日(土) 18 日(日)

- ①すべての国公立大学と 9 割近くの私立大学(一部短大)が利用する全国一斉の試験。
- ②国公立大学では 1 次試験として 6 教科 8 科目を課し(「情報 I」2025 年度から導入)、2 次で大学独自の試験を実施。2 次試験では、前期日程:2 月下旬 中期、後期日程:3 月上旬で実施。
- ③私立大学では文系で(英・国・地歴公民)の 3 科目、理系は(英・数・理)の 3 科目を合否判定材料とする大学が多い。
- ④上位私立大学では、共通テスト方式の出願締切を[共通テスト前日]とするところが多い。慎重に決定を。  
国公立はテスト後の自己採点の結果をふまえ二次に出願する。
- ⑤得点率の全国平均は 50～60%。→「進路の手引き」参照 60%以上得点できれば抑え校確保に利用可能。
- ⑥GMARCH 以上レベルの大学の共通テスト方式での合格は難しい。80～90%以上の得点率が必要。  
共通テスト方式は合格定員枠が少なく、一般受験よりも難易度は高くなります。(国公立の抑えとして使われる)  
しかし、共通テストである程度得点が取れた受験生は、一般受験でほぼ第一志望に合格しています。

出願	9 月下旬～10 月下旬 <b>今年から各自 WEB 個人で WEB 出願</b> 検定料(3 科目 18,000 円 2 科目 12,000 円 成績開示 800 円)を払い込んだ「検定料受付証明書」を添付して出願。払い込みは 9 月末まで。
----	--

教 科	科 目	試験時間	備 考
国語	「国語」	90 分	(出題科目)「現代の国語」「言語文化」(予定)
地理歴史	「地理総合、地理探究」 「歴史総合、日本史探究」 「歴史総合、世界史探究」	[1 科目]60 分 [2 科目] 60 分×2(間に 10 分)	[2 科目の場合の選択方法] 「地総、歴総、公共」が ・入らない場合:公民から 2 科目は不可。 ・入る場合:「地総、歴総、公共」で解答した 2 分野とは別の「科目」を選択。
公民	「公共、倫理」 「公共、政治・経済」		
(上記 両教科)	「地理総合、歴史総合、公共」 (2 分野を選択解答)		
数学①	「数学Ⅰ」「数学Ⅰ、数学 A」	70 分	[数学 A]2 項目をすべて解答(「図形の性質」「場合の数と確率」)予定 [数学 B、C]4 項目から 3 項目を選択解答 など
数学②	「数学Ⅱ、数学 B、数学 C」	70 分	
理科	「生物基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎」(2 分野解答) 「物理」「化学」「生物」「地学」	60 分 [2 科目] 60 分×2(間に 10 分)	基礎科目の数え方を「4=1 科目」にまとめ、試験枠を発展科目と統合。 実質変更はなく、科目の選択方法も現状のまま(基礎科目は「2 科目→1 科目(2 分野)と数える」
外国語	「英語」その他	80 分 リスニング 30 分(IC プレーヤー操作含め 60 分)	「英語コミュニケーションⅠ」「英コⅡ」「論理・表現Ⅰ」予定
情報	「情報Ⅰ」	60 分	新設教科

- ⑦テスト翌日に「共通テストリサーチ」(自己採点結果)を学校に提出。予備校に依頼し、可否予想判定結果を受け取って、その後の出願を検討する。私大で共通テスト方式の出願が共テ以降の場合、判定結果によって出願することもあり得る。
- ⑧国公立二次試験では、特に後期日程において前期での合格者が辞退するため、実質倍率は下がる。チャンス！  
卒業式以降もモチベーションを保ち、ここで挽回できる可能性があるためあきらめず挑戦してほしい。

### (3) 私大一般選抜

- ①多種多様な入試制度が設けられている。全学部統一入試が増加する傾向にはある。全学部統一入試と個別入試を比較すると、個別入試のほうが若干難易度は下がるが、日程が重なった場合にはやむを得ない。
- ② 検定料は 1 回の試験につき 35,000 円程度が一般的。同じ大学で複数学部、複数日程受験すると割引などの制度がある大学も多い。
- ③願書の取り寄せは各自早めに。(オンライン上の場合が増えている。)
- ④出願は早くて 12 月末ごろからスタート。1 月には多くの大学で出願が始まるため、12 月中に調査書を必要枚数分担任にお願いしておく。(「証明書等交付願」に記入、提出。発行まで時間がかかるので、余裕をもって)
- ⑤受験日程をよく注意して出願する。詰め込みすぎないこと。「数うちゃ当たる」はない。試験は体力を消耗する。
- ⑥夏休みに学校見学をし、学校までの経路は確認。平日の朝ラッシュや、事故による遅延、バスの混雑、大雪、などに可能な限り備える。ホテルに前泊などもよいでしょう。(保護者の付き添いについては、他受験生にも配慮を:バスに保護者が乗って他受験生があふれ、受験開始時間に間に合わなかった事例あり)